様式 G-2

共同利用実施報告書（研究実績報告書）
（一般共同研究）

１．課題番号　　２０ 18 －G－ 11

２．研究課題名（和文、英文の両方をご記入ください。）

和文：富士山宝永噴火堆積物下の江戸時代須走村の復元的研究

英文：The study of Subashiri (Shizuoka Pref.) Area damaged by HOEI eruptions (A.D.1707) of Mt. Fuji with GPR Survey

３．研究代表者　所属・氏名　東京大学大学院 総合文化研究科・杉山浩平

（地震研究所　担当教員名）　金子 隆之

４．研究組織の詳細（研究代表者も記載し、必要に応じ行を追加してください。）

氏名	所属・職名	担当
杉山 浩平	東京大学大学院 総合文化研究科・特任研究員	研究の総括
亀井 宏行	東京工業大学 博物館・教授	地中レーダー探査と解析
吉村 藤子	東京工業大学・大学院生	地中レーダー探査と解析
宮前 知佐子	東京工業大学・大学院生	地中レーダー探査と解析

５．研究計画の概要（申請書に記載した「研究計画」を 800 字以内でご記入ください。変更がある場合、変更内容が分かるように記載してください。）

1) 研究目的と意義

本研究は、昨年度（平成 29 年度）に採択をいただいた一般共同研究（研究課題名：富士山宝永噴火により罹災した建築物の復元的研究）の継続研究である。この研究は、富士山の宝永噴火により、埋没した江戸の須走村（現在の静岡県小山町須走地区）について火山学・考古学・情報科学の協力のもとで行う研究である。

須走地区は宝永噴火でもっとも甚大な被害が生じたところであり、町全体は焼失や潰れたうえで埋没し、唯一、浅間神社のみが除砂され、後に復興されたと言われている。しかし、堆積物の状況や家屋の被災状況などは文献に記されているだけで、全く不明である。そこで、平成 29 年度に本共同利用研究にて、浅間神社と門前町において 1 カ所の地中レーダー探査調査を行った。

その結果、浅間神社本殿および参道においては、火山灰の堆積の可能性は低く、これまでの言い伝えの通り、江戸時代の復興時に除砂などの清掃が行われた可能性が高い。一方、門前町域においては地表下約 1.6m 付近で、建物址等とおもわれるものを検出することができた。しかし、この建物址および道と推定されるものが、現在の浅間神社につながる街道に対して、主軸が約 40° 南に傾いていた。つまり、宝永の火山噴火以後の町作りの際に土地のマスタープランに大きな変更が行われた可能性が高いことが明らかになった。

平成 30 年度は追加調査を行い、道址など地割りの変化の有無を確認することを目的とした。そこで門前町域においては 2 カ所の地中レーダー探査を行う。地中レーダー探査は、研究分担者の東京工業大学の亀井宏行研究室が行う。探査期間はそれぞれ3日間程度とする。研究代表者の杉山は、レーダー探査とともに現況の地形測量等を行う。レーダー探査の終了後、研究室にてデータ解析を行い、噴火以前の須走村の様相を明らかにしたい。

６．研究成果の概要（図を含めて１頁で記入してください。）

キーワード（3～5 語程度）： 地中レーダー探査・静岡県小山町須走・富士山宝永噴火・埋没集落

今回の調査研究では、静岡県駿東郡小山町須走地区にて、宝永噴火で埋没した近世須走村の姿を復元するために、2018 年 6 月 4 日～5 日と 8 月 3 日～4 日に地中レーダー探査を実施した。本調査目的として次の 2 点を設定した。

１：2017 年の探査で課題となった門前町の街道部分を検討する。

２：門前町については絵図等が残されていないので、その広がりを確認する。

この目的を遂行するために、2018 年の調査では、現在の道路（須走本通り）の北側のエリアと門前町の東西端の検討に重点を置いた。調査地点は、空き地で、地権者の了解を得られたところに限られるため、「虫食い状」で調査面積にも大小ある状態での実施とならざるを得ない。こうした条件下でも、今回の調査では 8 地点（地点名は 2017 年から継続で Area7 から 14 と命名）で探査を行うことができた（図 1）。本報告ではこの中から成果を抜粋して、報告する。

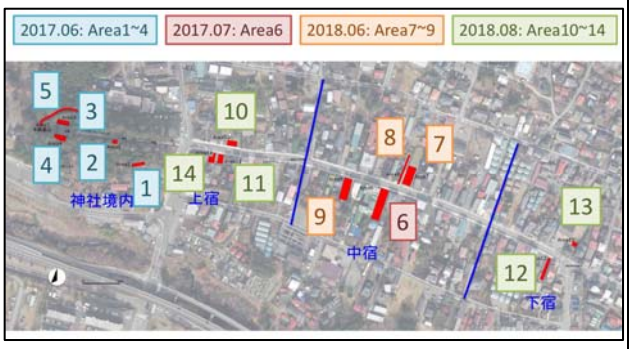


図 1 静岡県小山町須走地区の地中レーダー探査地点（上宿～下宿が門前町エリア）

Area7・8・10：現在の須走本通りの北側

Area7 では現代の攪乱により、火山灰層をほとんど確認することができなかった。Area8 では、ほぼ全域にわたり宝永火山灰層の水平堆積を確認した。Area10 は浅間神社の神主宅のエリアに位置し、他の探査地点（例：Area11）よりも約 1.2m 高い標高で旧地表面が検出された。

Area9・11・14：現在の須走本通りの南側、埋没集落の検出

Area9 では探査エリアの北側で火山灰が凹むように堆積しており、その旧地表面は約 8m×8m で強いレーダーの反射がみられた（図 2：赤点線内）。Area11 では探査エリアの北東側で、本通りに対してやや斜めに向く構造物（4m×6m）を確認した。Area14 においては旧地表面は確認できるのみであった。

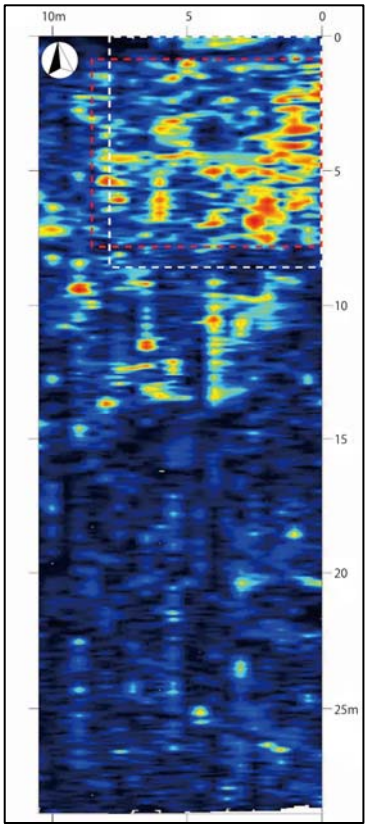


図 2 Area9 のレーダー探査図（地表下 1.64m）

Area12・13：門前町東端

Area12・13 では火山灰層の水平堆積が確認された。

以上、課題としてあげた問題について、現段階の予察を記す。

１とした須走の街道部分については、現在の須走集落の中心を走る「須走本通り」より北側（Area7/8/10/13）では、神社に近い Area10 を除いて、構築物等を確認していない。昨年行った Area6 や今年実施した Area11 での結果をみると、街道部分は現在の「須走本通り」の位置や走行方向とは異なる可能性がある。この点は、今後の追加調査で検証したい。

２とした門前町の広がりについては、西側は神社に近隣の神主宅域(Area10)で周囲よりも 1 段高い旧地表面を確認し、現在同様に神社付近まで門前町は続いていたと推定される。一方、東側は探査範囲(Area12/13)において、建物等構造物を確認できなかった。可能性としては、町の軸が大幅に現在とずれ、探査範囲そのものが町並みから外れているか、現在の町並みよりも近世の門前町は小さかった可能性がある。今後追加で検討していきたい。

７．研究実績

国際学会発表

C.Miyamae, M.Kobayashi, K.Sugiyama, H.Kamei, Geophysical survey for understanding the changes of the Oyamacho town in Mount Fuji area, 42nd International Symposium on Archaeometry, Merida Mexico, 2018

国内学会発表

吉村藤子・小林雅明・亀井宏行・金子節郎・勝俣竜哉・杉山浩平, 富士山の宝永火山噴火により埋没した村の地中レーダー探査, 日本考古学協会 第 85 回総会 研究発表, 駒澤大学, 2019（受理済み）

８．外部資金の申請・採択状況（任意）

なし